

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201132		
法人名	医療法人 翠山会		
事業所名	医療法人 翠山会 グループホームなかよし ユニットA		
所在地	長崎県佐世保市赤崎町81-3		
自己評価作成日	令和 4年 10月 20日	評価結果市町村受理日	令和5年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

機能訓練や音楽療法を取り入れ、楽しみながら身体・精神両面からの刺激で、認知機能の維持・向上に努めている。食の面でも栄養バランスを考えながら、四季や日本の行事を大切にし、利用者様の嗜好も取り入れ、家庭定期的な雰囲気の中で過ごして頂ける様務めている。1日3回の清掃や週3回の入浴で臭いのない環境づくりをし、清潔には十分気をつけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の願望から出た言葉「元気で楽しくゆったりと」をサブ理念に掲げている。職員はやさしい対応と言葉遣いを心掛けており、利用者はレクリエーションや生け花、塗り絵等、思い思いにゆったり過ごしている。コロナ禍の現在、利用者の検温を毎日2回行い、職員は出勤時に抗原検査を実施している。また、日に3回の清掃や臭気チェックを行う等、感染対策及び衛生管理が徹底していることは特筆すべきである。医療法人を母体に持ち、医師や看護師の訪問に加え、理学療法士による機能訓練メニューを取り入れており、健康管理面で利用者と家族に安心を与えていることは、事業所の強味である。食事は職員の手作りで家庭的なメニューを提供しており、利用者は配膳や下ごしらえを手伝っている。理念である「利用者の能力が発揮できるよう」真摯に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を目に付くところに貼り、全員が共有し取り組むようにしている。サブの理念も朝食前に利用者様とともに唱和している。	事業所では5項目の基本理念の掲示とともに、利用者の願望として出たというサブ理念「元気で 楽しく ゆったりと」を毎朝利用者と唱和している。職員は介護の基本はやさしさであるとの考えの下、利用者が家庭で行っていたことを入居後もできるような支援を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材を地域の商店から配達してもらい、地域での情報を取り入れ、交流につなげている。	事業所は、小学生の通学路に面し、こども110番を担っている。新型コロナ禍以前は、事業所の1階を地域に開放しており、小学生が気軽に立ち寄れる場所になっていた。近所の中華料理店とは人材紹介を受けるような交流がある他、中高生の職場体験や短大生の実習も受入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学、高校、短大からの職場体験や実習を受け入れ、交流を深め、認知症への理解につなげるようにしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を年6回行っているが、コロナ禍では文書による意見をいただき、サービス向上に努めている。	年6回開催している。コロナ禍の現在は書面会議となっており、質問や意見は、書面で受け付けている。事故の記録も詳細に記し、資料は家族に送付するとともに、事業所内の会議で職員に開示している。ただし、委員からの意見や質問に対する回答は、直接口頭で行うに留まっている。また会議を開催した年月日が不明である。	議事録は、日付を記入することで適切な記録となると考えられる。また、委員からの意見、質問やそれに対する回答を委員、家族、職員間で共有する取組みが待たれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	県、市の長寿社会課や包括支援センターへ積極的に疑問等相談し、解決できるように取り組んでいる。	行政の担当部署や地域の包括支援センターとメールやファックスにより文書のやり取りを行っている。市から新型コロナの抗原検査キットを受け取っている。市主催の研修にはオンラインで参加するとともに、担当部署の職員からは、該当の利用者の介護計画の更新の都度、問い合わせが来っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的にも精神的にも拘束しないよう研修を行うと共に、職員同士でも声掛けを行いながらケアを行っている。	毎月事業所で身体拘束についての研修を行っている。また月2回、法人内の他の事業所とともに身体拘束適正化委員会を開催しており、管理者が出席し、内容は職員に周知を図っている。現在、皮膚の剥離防止のため、家族から同意書を得て、夜間のみつなぎ服を着用しており、毎月解除に向けて検討しているが、記録がない。	身体的拘束等の適正化のための指針に基づき、つなぎ服の着用について、解除に向けた検討の記録が必要である。至急の取組みが待たれる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修やグループホーム会議で意識の向上に努め、虐待防止につなげている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協や成年後見人の委託をされている利用者様がおられ、金銭の使用状況や生活状況を報告し理解をいただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談にてしっかり説明を行い、双方理解し、納得した上で同意書を取り交わすようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を頂いていたが、現在は感染予防の為文書や電話などで要望を聞き取り、改善に努めている。	利用者からは、家族へ電話をかけてほしい、化粧品を買いだたい等の要望が出ており、職員が対応している。また、リビングのテレビが見にくいという要望を受けて、棚を作った事例がある。家族からの質問や要望は、「来訪簿」に記録し、職員間で共有を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議やADLノート等での意見や提案を受け止め、反映するようにしている。	運営に関する連絡事項は、「申し送りノート」また、利用者の体調等に関する事項は、「ADL気づきノート」にて職員間で共有している。職員会議では、活発な意見が出ており、テレビの購入が実現している。希望休や連休の取得にも配慮しており、働きやすい労働環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状態や能力を把握し、給与水準や資格取得の支援をし、やりがいを持って働けるよう努めている。労いの言葉かけを行い、意識の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を積極的に受けるよう働きかけ、多くの職員が学べるようにしている。研修後は報告書を提出し、回覧を行いスキルアップにつなげている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通して交流を持ち、意見交換などでサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に知り得た情報や生活歴を通して、安心して生活できるような環境を作り、良い関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけたくさんの会話をして不安を取り除き、信頼関係を作り、安心して生活できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供や入所前の面談で現段階での不安や要望をお聞きし、その時に必要なサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の配膳や台拭き、花の水替え、洗濯物たたみ等を一緒に行うことで、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在感染予防の為行事などへの参加は困難だが、以前は行事への参加など、時間を共有していただけるようにしていた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防の為現在はガラス越しの面会や電話での会話を通し、交流が途切れないよう支援している。	利用者の中には、趣味の編み物をしたり、新聞を読んでいる人がいる。また、海外在住の家族から電話があったり、手紙が届いている。新型コロナ禍では、ガラス越しの面会が多いものの、感染状況によっては、対面での面会を支援している。家族から昔の写真が届くこともあり、馴染みの関係継続を支援していることがわかる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず 利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努 めている	レクリエーションで一緒に歌を唄ったり塗り 絵をしながら、会話を楽しんだりしながら交 流をされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性 を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	退居や入院をされても関係性を持ち、つな がりを切らないようにしている。亡くなられた 場合は必ずお悔やみに行き、生前の様子を 語り合いながらご家族様と同じ気持ちでお 見送りさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努 めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話を否定せずに傾聴し、寄り添いな がら本人主体の生活が送れるよう支援して いる。	利用者の入居前の生活歴を聞き取り、好きなこと を把握している。難聴の人には、筆談でコミュニ ケーションを図っている。職員は、利用者が行う塗 り絵の図柄の好みを把握したり、着る服を選ぶ際 は、本人の意向を尊重している。起床就寝の時間 は、自由である。大晦日は、夜遅くまでテレビを見 て過ごし年越しを楽しんでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、こ れまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報は全職員が目を通し、重要な 情報は再度職員に周知し、可能な限り今ま での生活に近づけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	心身の状況など見落としがないように申し送 りノートやADL気づきを活用しながら、本人 のペースに合わせ、規則正しい生活が出来 るよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につい て、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの 意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作 成している	本人、家族の意向をもとに介護計画を作成 し、良かった点、反省点を次へ活かしている。 PTにも月に一度訪問してもらい、本人に 合わせた機能訓練や補助具を選んでもらっ ている。	入居希望者と面談後に暫定プランを作成して おり、プランを実行した際は、「経過表」に記録して いる。毎月のケア会議と3ヶ月に1回のモニタリング 会議で検討し、サービス担当者会議に繋いで いる。機能訓練メニューに理学療法士が参加して いることは、母体が医療法人であることの強みと言 える。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しに活かしている	個別記録をPCに入力し、申し送りノート、 ADL気づきも活用し、具体的な介護計画に 反映している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、通院や買い物支援等ニーズに対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の支援を得て避難訓練や職員の研修会などを行っている。現在は中断しているが以前は米軍ボランティアにも来て頂いていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間医療連携体制をとっており、何かあった場合、連絡を取り指示をもらうことができる。必要場合は他病院への紹介も速やかにしてもらっている。	利用者は入居時に説明の上、全員が母体である医療機関をかかりつけ医としている。毎日往診があり、週に1回は看護師が巡回している。他科受診の際は紹介状を発行し、家族が同行している。歯科は必要に応じ訪問診療があり、口腔指導も受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問介護師の来所や24時間相談ができる等、日常的に支援が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や入院先病院との連絡を行うとともに、情報共有を行い少しでも早く退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた取り組みに対し、事業所で出来る範囲の事は入所時説明し、その都度話し合える対策を行っている。	重度化や終末期について、それぞれに指針を作成し、入居時に利用者と家族に説明を行っている。重度化や終末期を迎えた時に、看取り支援を受けるか入院するか選択することができる。事業所で看取り支援となる場合は、指針に基づき説明し、同意書を得ている。職員の看取りの研修は、ビデオ視聴にて行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し、日頃より急変や事故時に備えている。消防署の研修会などにも参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年二回の避難訓練を行い、職員の技術や意識の向上に努めている。法人内からの応援を受けられるよう連携をしている。非常食、水を備蓄していたり、火元の確認、木や草の伐採を行っている。	年2回の火災訓練には、夜間を想定した職員1人で対応する訓練を昼間に組み入れている。年1回の防災訓練では、事業所の地形から想定されるがけ崩れの訓練を行っている。法人内の他施設の職員を含めた携帯電話による連絡網を築いており、緊急持ち出しファイルも準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の気持ちを持って支援を行い、必ず「さん」付けで声掛けを行い、会話も「です。ます。」を使うように心がけている。失禁時は人目に触れない場所で行うようにしている。	入居時に、家族へ写真を含む個人情報利用目的に関する同意書の提出を依頼している。事業所内の接遇の研修では、利用者に対する声掛けの口調について指導を行っている。職員は、毎日「敬語チェック表」をつけ、自身の支援を振り返っており、利用者の人格を尊重する支援に重点を置いていることが窺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動の参加は本人の意思にて決定して頂いたり、選択肢を二つ以上示したりするなど、本人の意思を出しやすいようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて無理強いせず、過ごして頂ける様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで着用していた服を持参して頂き、個々の好きなように四季を楽しみながらおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備など、出来る範囲でお手伝いをして頂いている。行事食で旬の食材を使い、目でも食事が楽しめるよう心掛けている。誕生会では好みの物を提供するようにしている。	食事は、職員の手作りである。法人の栄養士がメニューをチェックして改善すべき点を指導している。魚は身をほぐし、食べやすいよう配慮し、利用者の体調が悪い場合は、部屋食も可能である。誕生日のケーキや筍の皮むき、ぜんざい会、すいか割会と季節感を大切に、職員も一緒に食卓を囲み、食事が楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時々々の体調に応じて量を減らしたり、硬さを調節したりしている。水分補給は夜間水筒を準備し、補給に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力に応じたケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のタイミングを把握し、トイレ誘導の声掛けを行い支援している。	職員は、昼間はトイレでの排泄支援を基本としており、ポータブルトイレは、主に夜間に使用している。利用者毎に排泄の記録を行い、時間を見ながら誘導している。利用者一人ひとり、昼間と夜間でパッドを使い分けており適切なものとなるよう努めている。現在は、おむつを使用している利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を記録し、便秘の方へは水分摂取や軽い運動を行うが、困難な方には主治医の指示を仰ぐようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回を基本として支援を行っているが、困難な時には清拭や更衣を行い支援している。菖蒲湯やゆず湯を提供し、季節感を味わって頂いている。	週3回を入浴日としている。同性介助の希望に応える他、浴槽に入ることができない場合には、足湯とシャワー浴を行っている。入浴を拒否する利用者には、再度声掛けしたり、清拭や着替えなど清潔保持に努めている。菖蒲湯や冬至には、庭の柚子の実を挽いでゆず湯とする等、入浴が楽しみとなるよう支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動していただき、夜間しっかり眠れるように支援している。室温、寝具の調整を行い、必要な方にはなじみの毛布や枕等を持参して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬を職員が理解し、誤薬がないように複数での確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夏祭り会や利用者様全員で一つの作品を作るなどの気分転換を行ったり、編み物が得意な方はコースターを作り、ほかの人に配ったり、書道の得意な方は明治から令和までの元号を書き掲示されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防の為現在行えていないが、以前は花見ドライブ、買い物、外食等行っていたので、コロナが収束したら再開したいと考えている。現在は季節の花を飾ったりして楽しんでいただいている。	コロナ禍以前は、近隣の水族館や買い物に出掛けていた。現在は散歩も自粛している。家族が病院の受診に同行する際の行き帰りに、利用者は、車窓から景色を楽しんでいる。事業所内では、職員が工夫して夏祭りをを行い、ヨーヨー釣りを楽しんだり、生け花教室で生けた季節の花々を自室に飾る等、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は出来ていないが、外出支援の時には可能な方にはお金の管理をして頂いていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の子機にて家族との会話を楽しめるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日3回清掃を行い、清潔な環境整備を行っている。表札や生花で季節感を味わえるようにしている。光に対しての対応もレースのカーテンを使用している。ホールにはテレビ、ソファを設置し、ゆったりとくつろいで頂けるようになっている。	リビングからは、四季折々の景色を臨むことができる。利用者は集まって体操したり、懐かしい歌を歌って楽しんでいる。また、生け花教室では、季節の花々を生けている。台所に立つ職員の様子もよく見える。臭気チェックや1日3回の清掃で、清潔で居心地の良い環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やリビングを自由に行き来され、ソファ等それぞれの場所でゆっくりと過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやラジオの持ち込みや家族写真やご自宅で使用されていたものを持参されるなど、それぞれ個性のある居室にされている。	居室入口の名札には、季節の飾りを施して利用者にとってわかりやすく、心が和む目印となっている。備え付けの整理棚の他、家族の写真やテレビを家庭から持参している。生け花教室で生けた花を居室に飾り、明るい雰囲気である。居室の清掃は職員が行っており、利用者の中には、モップかけを手伝う人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーとなっており、車いす、杖歩行もスムーズに行える。プレート表示で分かりやすく表示し、居室、トイレ、浴室など移動しやすい。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201132		
法人名	医療法人 翠山会		
事業所名	医療法人 翠山会 グループホームなかよし ユニットB		
所在地	長崎県佐世保市赤崎町81-3		
自己評価作成日	令和 4年 10月 20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に基づき、安心で安全な生活が出来るよう、衛生的な環境を作る為、毎日の掃除は怠る事なく、コロナ対策としても徹底して行っています。「よりよい人生」「よりよい生活」を送って頂く為、尊厳を守り、レクリエーションや手工芸、音楽等を楽しんで、レベル低下を防ぐ支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれたホームになる様に理念を掲示し全職員で共有し、その実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍でストップしているが、学生の職場体験や敬老会での催しなど地域とのつながりをもっている。町内の商店より食料品を仕入れたり、民生員や町内会の方に運営推進会議の時に意見を求めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	長崎短期大学の実習の場所として提供している。子供100番の場所として、子供達が立ち寄れる場所になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍で書面による意見を頂き、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿社会課や地域包括支援センターと連携し協力関係を築く様に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍の為、書面やオンラインの研修にはなるが、正しく理解するように努めそれを支援に活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回GH会議にて研修を行い虐待に対しての意識を高め、介護困難事例から虐待に繋がらない様に職員間で話し合い、対策をたてたり自己反省に役立てる様敬語チェック表に記入している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の人権を守るため認知症の判断力が低下した利用者様の支援が出来るように学ぶ機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時契約の際、口頭で説明を行い同意書を頂き、控えをお渡ししています。改定時にも郵送し面接時等に説明し同意書を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍により、書面にてご意見要望頂いており、また面会時にも会話よりひろいあげ、検討し改善する様努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議やケア会議、ADL気付きノート等にて職員間の意見交換を行い検討し改善する様努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会への参加を促したり、スキルアップの補助をして頂いたりしており、また法改正の時等、給与アップにつながる事務処理等の協力を頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に参加出来る様に勤務調整をして頂いたり、全職員に研修内容がフィードバック出来る様資料を回覧したり、GH会議等で発表して頂いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中で出来る範囲でグループホーム協議会を通じて交流を持ち、意見交換等でサービスの質の向上を目指しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望等がないか、傾聴し、安心してホームでの生活を送って頂ける様に支援し、よりよい関係を構築出来る様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との信頼関係を保つために笑顔で接し、傾聴しよりよい関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所検討会を開き、他の事業所からの情報提供等により状況を把握し、必要なサービスが受けられる様に支援します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	軽家事を一緒に行ったり、メニュー作りに参加して頂いたりして、共に過ごし支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係を理解し、コロナ禍により他科受診の協力を頂きホームでの様子は新聞や電話等で伝え意向の共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で直接のふれあいは現在出来ていないが電話や手紙等での対応で関係が途切れない様な支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや軽家事等と一緒に参加して頂いて、スタッフが仲立ちとなりながら関わり合い支えあえる様支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍で直接の関わりは現在十分でないが、ご家族様からの相談等にはのれる様努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を知り、希望や意向の把握に努め、職員全員で共有し少しでも、本人主体の生活が出来られる様支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前の調査で個人情報を把握と全職員が周知する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や申し送りノート、ADL気付きノートや職員間での報告連絡を十分に活用し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や関係者と話し合いそれぞれの意向を反映しながら、本人主体の現状に即したケアプランを作成している。母体PTの指導を受け、個々にあった機能訓練を行うプランを作成し月1回見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果を個別に記入し、申し送りノート、ADL気付きノートで職員間の情報共有を行い、日々の支援や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況によりコロナ禍でも可能な限り様々なニーズに対応出来る様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子供100番の場所になっており、トイレを借りに来たりする子がいたりする。消防や警察からの協力を得て安心安全な暮らしが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間医療連携体制をとっており、終日必要に応じて連絡を取り指示をもらうことが出来る。殆ど平日はDrが往診に来て健康状態を確認している。他科受診はご家族に協力して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回NSが訪問し利用者の健康状態を介護記録に記入して、Drとの橋渡しをして頂き、平日に対応することが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先や家族に連絡を取り合い情報交換や相談をしている。退院後の生活についても相談を行い出来るだけ早く入院前の生活に戻られる様に支援努められる様関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取りについての意思の確認を取り、早期から話し合い方針の統一がとれる様に努め同意書も頂く様にしている。コロナ禍で学ぶ機会は少ないが、流れはスタッフ全員で把握に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、学習や訓練を行っている。特変時には連絡網でスタッフが駆けつける体制もっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	入在時より災害の研修は行っている。年2回火災訓練、年1回防災訓練を行っている。運営推進会議時等に地域の皆様に協力の声掛けを行っている。消防署の立ち入り検査も受けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊厳の気持ちを持ち、ほこりやプライバシーを損ねることが無い言葉遣いには十分気をつける様にしている。 日々敬語チェックをつける様にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動の参加は本人の意思にて決定して頂いたり、選択肢を二つ以上示したりするなど、本人の意思を出しやすいようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて無理強いせずにご過ごして頂ける様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで着用していた服を持参して頂き、個々の好きなように四季を楽しみながらおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備など、出来る範囲でお手伝いをして頂いている。行事食で旬の食材を使い、目でも食事が楽しめるよう心掛けている。誕生会では好みの物を提供するようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時々々の体調に応じて量を減らしたり、硬さを調節したりしている。水分補給は夜間水筒を準備し、補給に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力に応じたケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のタイミングを把握し、トイレ誘導の声掛けを行い支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を記録し、便秘の方へは水分摂取や軽い運動を行うが、困難な方には主治医の指示を仰ぐようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回を基本として支援を行っているが、困難な時には清拭や更衣を行い支援している。菖蒲湯やゆず湯を提供し、季節感を味わって頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動していただき、夜間しっかり眠れるように支援している。室温、寝具の調整を行い、必要な方にはなじみの毛布や枕等を持参して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬を職員が理解し、誤薬がないように複数での確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夏祭り会や利用者様全員で一つの作品を作るなどの気分転換を行ったり、編み物が得意な方はコースターを作り、ほかの人に配ったりされている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防の為現在行えていないが、以前は花見ドライブ、買い物、外食等行っていたので、コロナが収束したら再開したいと考えている。現在は季節の花を飾ったりして楽しんでいただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は出来ていないが、外出支援の時には可能な方にはお金の管理をして頂いていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の子機にて家族との会話を楽しめるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日3回清掃を行い、清潔な環境整備を行っている。表札や生花で季節感を味わえるようにしている。光に対しての対応もレースのカーテンを使用している。ホールにはテレビ、ソファを設置し、ゆったりとくつろいで頂けるようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やリビングを自由に行き来され、ソファ等それぞれの場所でゆっくりと過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやラジオの持ち込みや家族写真やご自宅で使用されていたものを持参されるなど、それぞれ個性のある居室にされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーとなっており、車いす、杖歩行もスムーズに行える。プレート表示で分かりやすく表示し、居室、トイレ、浴室など移動しやすい。		